

第十四日目

師 範：12世紀の半ばになると、京都の政治に対立が生じて、武士の力を利用して戦うようになった。



つまり兄の上皇側と弟の天皇側とに、藤原氏の兄弟の対立に、武士の源氏や平氏が動員されて対立するようになったのです。

武士の源平も身内の対立になっていました。

これが保元元年におこった合戦だったので、保元の乱といいます。1156年のことです。中央の戦いに武士が利用されたということで、大きな意味をもった戦いでした。

1156年 保元の乱がおこる。

この年を覚えましょう。

コン太：これは簡単だ。



「保元は武士登場にいいころだ」

11は「いい」と読んで、56は「ころ」と読んだんです。

師 範：意味とうまくつながったね。

これは覚えやすいでしょう。

ペン太：まいりました。

